MY 米PLACE 当麻
http://www.ja-tohma.jp/

JA当麻

JANUARY 2024 1
Vol.640
JA TOHMA

次世代へつなぐ
魅力ある当麻農業を目指して

○新春挨拶 ……2
○組合のあゆみ ……9
○新たな若い力に町をあげてエール
令和５年度 新規担い手就農者を祝う会開催 ……10
○キュウリ部会販売金額８億円達成祝賀会 ……11
○当麻町そ菜研究会・当麻町花き生産組合
各部会定期総会及び作況反省会 ……12
○当麻町そ菜研究会
第58事業年度定期総会及び全体作況反省会 ……13
○当麻町花き生産組合
第６４事業年度定期総会及び全体作況反省会……14
○ＪＡ役員研修 ……15
○足あと……16
○林先生による国消国産資材 ……19
○みんなの広場……20
○令和６年度　ＪＡ当麻野菜集荷場受入カレンダー …21
○JATOHMA information ……22

令和六年の年頭にあたり

当麻農業協同組合　代表理事組合長　福井幸司

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、輝かしい令和六年の新春をご家族にて健やかにお迎えのことと、心からお慶びを申し上げますとともに、日頃より当組合発展のために特段なるご理解とご協力を賜り、役職員一同厚くお礼申し上げます。

昨年の当麻農業を振り返りますと、春先は天候に恵まれ生育は順調に進んでおりましたが、夏場から秋にかけての記録的な猛暑、また一時的な豪雨の被害がみられるなど、農作物の栽培管理においては全作物を通じて大変ご苦労の多かった一年でありましたが、農作物生産に対する日頃の組合員皆様のご尽力に敬意を表する次第であります。

さて、長きに亘り活動自粛を余儀なくされておりました新型コロナウイルス感染症が五類へ移行したことにより、以前の生活を取り戻しつつありますが、円安の影響や国内での物価上昇などにより、景気回復には至っていない状況下にあります。しかしながら活動自粛の解除により組合員皆様との『対話』と『交流』の場は増え、組織活動及び組織運営が制限なく行えることとなり、各生産組織との協力のもと、当麻農業の発展に向け、活発な協議（対話）が出来ますことを大変嬉しく感じております。

依然として続く不安定な世界情勢から、農業生産に係わる資材費は高止まりしており、農家経営に厳しい影響を与えております。

当組合としましては変わらぬ肥料高騰などの状況を踏まえ、健全な農家経営の一助となるよう対策を講じ、営農に対する各種支援を取り進めて参りました。今後も情勢の動向を注視しつつ、組合員皆様の安定経営に繋がるよう、各種検討を続けてまいります。

農産物の状況としまして米の作況指数は、北海道が『一〇四』上川管内においては『一〇五』のやや良と公表され、米価回復の動きがある中で豊作となることを期待しておりましたが、例年並みの収量の確保には至らず、品質においては長く続いた高温の影響により、低タンパク米出荷比率の低下や腹白米の発生が多く散見されました。カントリーエレベーターと玄米バラ化施設を併せ十七万三千俵の当初計画を下回る集荷実績となりましたが、組合員皆様の一元集荷へのご理解ご協力を賜りました事に感謝を申し上げます。

園芸作物のそ菜につきましては、販売総額が十三億九千万円となり、きゅうりにつきましては販売額が三年ぶりに八億円の大台を超え、販売金額八億円達成祝賀会を開催出来ましたことを大変喜ばしく感じております。花き類は国内産の需要が伸び、全般的に高単価で推移したことにより、一億七千万円の販売実績となりました。当麻農業が長年取り進めております水稲と園芸作物を併せた複合経営が、農業経営の厳しい状況下にあっても、所得確保に繋がる成果となった一年であったと捉えております。

令和六年度は第十五次地域農業振興三ヶ年計画・農協経営三ヶ年基本計画実施年度でございます。水稲作付面積と園芸作付面積の維持・拡大には、高齢化など様々な問題を抱えておりますが、将来へ向けた農業施策に関する生産組織からの『声』をお伺いし、相互扶助の精神をもとに組合員皆様との対話・交流の下、当麻農業の発展に向け、共に取り組んでまいりたく存じます。

農業を取り巻く環境は気候変動や世界情勢の影響を色濃く受け、状況は常に変化しております。しかし、食料安全保障強化の役割を担う北海道の一産地として、原点に振り返りながら、先進的な農業技術の活用を検討し、各関係機関と連携を図りながら、若い世代へと当麻農業を繋げてまいります。

本年も天候に恵まれ、実り多い豊穣の一年になりますことと、組合員の皆様がご健康で幸多い年になりますことをご祈念申し上げ年頭のご挨拶といたします。

賀春

本年もよろしくお願い申し上げます。

代表理事組合長	福井幸司
専務理事	坂下一登
理事	豊田孝行
理事	紺屋友良
理事	佐藤孝
理事	石田信也
理事兼務参事	水口智善
信用担当理事	住田昌之
代表監事	林唯晴
員外監事	内海敬裕
監事	山村伸二

令和六年の年頭にあたり

当麻町長
村椿哲朗

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、令和六年の新春をご健勝のうちにお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスが五類に引き下げられ、コロナ禍前の生活へ戻りつつある中、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化により、燃油をはじめ物価の高騰が続くなど、日本経済や日常生活に大きな影響を受けました。

当麻農業を顧みますと、春先の融雪は例年にない早さで進み、順調な営農のスタートを迎え、その後も天候に恵まれ生育は進みましたが、夏場は猛暑となり、大雨や強風の影響など農作物管理に大変ご苦労された年だったとご推察申し上げます。

水稲につきましては、北海道農政事務所が発表する作況指数は上川管内で「一〇五」となりましたが、当麻町においては大雨や強風による倒伏などにより収穫量は減少し、品質は高温による白未熟粒や胴割れが散見され、高タンパクであったとお聞きし、非常に厳しい出来秋だったと感じております。生産者皆様におかれましては、多大なご苦労があったとお察しいたします。しかし、このような中でも「上川地区ゆめぴりかコンテスト２０２３」で金賞を受賞されましたことは、日頃の並々ならぬご努力に改めて敬意を表するところであります。

そ菜につきましては、大雨による浸水や強風などハウスへの被害や高温により出荷量が減少するなかでも、安心安全な農産物を生産することに努め、市場との信頼関係を基にした販売面での取り組みを行い、前年を上回る十三億九千万円を超える販売額を残されました。特に「キュウリ」は令和二年産に次ぐ販売額八億円を達成されましたことは、生産者皆様のご努力の賜物と心から敬意を表するところであります。

花きにつきましては、販売面ではこれまで「大雪の花」ブランドの評価を守り続けてこられたことで市場からの信頼も厚く、販売額は、円安の影響で輸入品が減少し価格が高値で推移したこともあり、一億七千万円を残されました。

これも生産者皆様の品質向上にかける日頃のたゆまぬご努力に心より敬意を表するところであります。

町がふるさと納税として取組んでおります「まちづくり寄付金」も、今年度も全国の皆さんから非常に多くのご寄付をいただき、二年連続四億九千万円を超える実績となりました。本年も昨年並みの実績となるよう期待しているところでございますが、これもひとえに組合員皆様が丹精込めて生産する農産物に、全国の方々が大きな魅力を感じていただいているものと捉えております。

「三育」の大きな柱の一つ「食育」としての取組みである田んぼの学校につきましては、秋の稲刈りは悪天候により中止となったものの、春の田植えは子供達により実施することができました。本年も子供達と町民皆様が笑顔とともに「命をいただく大切さ」を共有できることを強く願っています。

長引く経済の低迷、燃油や農業資材の物価高騰など日本農業を取り巻く環境は、依然として予断を許すものではありません。当麻町としても引き続き、担い手の高齢化や農業力不足に備えるべく、ＧＰＳ技術を活用した自動操舵機などのスマート農業の推進や、野菜・花き栽培の土台となるハウス導入、ミニトマトの隔離栽培導入に対して、当麻農協と共に支援してまいります。

常に先を見据え、激化する産地間競争に勝ち抜き、当麻農業が持続的発展を果たす為にも、農業機関との連携をさらに密なるものとし、当麻農協はもとより各関係機関の足並みをしっかり合わせ、各課題に向き合ってまいります。

先人たちの苦労と努力に想いを巡らせ、誰もが安心して暮らせるまちづくりと、町民のみなさんが思い描く、夢や希望を実現できるよう、創意工夫を凝らした施策を展開し、次の世代に誇れるまちづくりに努めてまいります。

最後になりましたが、本年が災害のない一年でありますことと、組合員の皆様にとりましてご健康で幸多い年となります様ご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

謹賀新年

本年もよろしくお願い申し上げます。

当麻町米麦改良協会 会長	福井幸司
当麻米産地形成協議会 会長	日下部裕一
当麻町そ菜研究会 会長	開田厚志
当麻町花き生産組合 組合長	土井清司
当麻町稲作研究会 会長	長谷川新
当麻町カントリー利用協議会 会長	羽根敏
当麻町水稲防除連絡協議会 会長	真鳥修一
当麻町認定農業者協議会 会長	井上雅司
当麻町農業法人会 会長	宮嶋一洋
当麻町畑作経営協議会 会長	太田弘
当麻町牧草生産部会 部会長	田中信幸
当麻町農業税対協議会 会長	佐々木康二
当麻町水田転作生産部会 会長	石田信也
当麻町畑作物作業受託運営協議会 会長	石田一光

令和六年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会　代表理事会長
樽井　功

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先は天候に恵まれ地域によって降雹被害や竜巻の被害が見られたものの、概ね、平年並みに推移しておりました。しかしながら夏場は猛暑による記録的な高温多湿の影響を大きく受け、各作物の生育自体は、全般的に平年よりも早く進んできましたが、各作物等の収量および品質の低下が顕著となる残念な年でした。

新型コロナウイルス感染症の位置付けは昨年五月より五類に移行し、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、各農畜産物の消費は依然として低迷しており、さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大なものとなっています。

さらにこれらの影響を受け、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪合戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっています。

現在、日本の食料自給率は三十八％しかありません。

これは、世界の先進国の中で最低の水準であり、六割以上の食べ物を輸入に頼っているのが日本の現状です。

食料安全保障の強化が国家の喫緊の課題であることから、我が国の食料供給基地である北海道農業が果たしてきた役割、そして北海道農業への期待は、今後ますます大きくなるものと考えております。

ＪＡグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組むことが重要であり、国民の命の源である食を守り続けるにも、まさに新しい農業を築き、未来の世代へ繋いでいく必要があり、行政や全国連とも連携し、しっかりとその対応を図ってまいります。

今年は、第三十一回ＪＡ北海道大会が開催されます。

また、第三十回ＪＡ北海道大会の実践最終年度であり、決議された将来ビジョンである、「北海道五百五十万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」の成果をしっかりと検証し、次のＪＡ北海道大会に繋げていく必要があります。

このような状況であるからこそ、協同組合運動の原点に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互いに協力し、力を合わせこの難局を乗り越えることが重要となります。

消費者の皆様に対しては、今まで以上に農業・食に対する理解を求めるため、ＪＡグループ北海道統一の情報発信のフレーズである「アグリアクション北海道」を浸透させ、より効果的な情報発信を行い、ＪＡグループが提唱する「国消国産」の認知を広めてまいりましょう。

結びになりますが、本年は辰年です。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので、活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年だといわれています。

この謂われにあやかり、本年が豊穣の年となること、皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和六年の年頭にあたり

当麻町農業委員会　会長　住田哲也

新年、明けましておめでとうございます。

令和六年の新春を迎えるにあたり、組合員の皆様並びにご家族の皆様におかれましては、ご健勝のうちにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より農業委員会活動の推進にあたりまして、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年の当麻農業を振り返りますと、長引くロシアによるウクライナ侵攻で、世界的なエネルギー、食糧価格の高騰など、営農活動に限らず日常生活においても不安感を伴う一年であったとご推察いたします。

春先は積雪が少なく気温も高く推移したことで、融雪も順調に進みましたが、六月、七月は気温が高く経過し、出穂後も高温が続き、また、倒伏が多くみられ、収穫期にも断続的な降雨により作業の遅れが見受けられましたが、水稲におきましては上川管内の作況指数は「一〇五」となりました。

そ菜につきましては、全体で十三億九千万円を超える素晴らしい実績となりました。組合員皆様のご努力と栽培技術の高さに、また当麻農協並びに関係機関の支援、連携体制に敬意を表するところであります。

花きにつきましても、円安の影響で輸入品が減少したことで、高値で推移したとお聞きしております。国内産地が減少する中、当麻ブランド「大雪の花」が例年どおり生産・出荷され、市場・消費者から高い評価を受けたことに安堵しているところであります。

毎年十一月に農協、町、農業委員会により開催しております新規就農者を祝う会において、昨年は一名の新規就農者と二組の新規入植者、一組の新婚農業者をお祝いさせていただきました。大変うれしく感じるとともに当麻農業の担い手として、今後のご活躍を祈念申し上げます。

農業を取り巻く状況は、新型コロナウイルス対策の規制緩和による社会経済活動、社会情勢の大きな変化をはじめ、異常気象への対応や加速する少子高齢化による担い手不足等、多くの課題を抱えております。我々農業者が国民の食糧生産を担っているとの誇りを持ち続け、消費者へ安全・安心で安定的な農産物の供給を目指していかなければなりません。

当麻農業を持続させ守りぬくためには、将来をしっかりと見据え、効率的で安定的な農業経営を確保するとともに、農地の有効利用や担い手の育成・確保が重要であり、今後とも農業委員会の使命を果たせるよう、農地等の利用の最適化を積極的に推進するとともに、優良農地を次世代へ引き継ぎ守ること、担い手への農地の集積・集約化、新規就農者への相談対応等に取り組んでまいります。

農業委員会は昨年七月の改選により、新たな体制でスタートいたしました。毎月一回の総会において、許可申請や届出のありました案件について審議しております。委員一同、当麻農業を守るために組合員皆様のご指導と行政・各農業関係機関のご協力を賜りながら、慎重審議の上、公正な農業委員会の運営に努力する所存でございますので、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

結びに、本年が災害などに見舞われることなく、稔り豊かな一年になりますよう、併せて組合員皆様とご家族のご健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

賀春

本年もよろしくお願い申し上げます。

―当麻町農業委員会―

会長	住田哲也	
会長職務代理	佐々木康二	
委員	窪　郁夫	
委員	木下和夫	
委員	荒川敏幸	
委員	杉山紀幸	
委員	池澤弘道	
委員	福田はるみ	
委員	紺屋友良	
委員	菅野安男	
委員	髙橋裕一	
委員	藤中敏彦	
委員	田中信幸	

新年にあたって

上川農業改良普及センター　所長　鈴木康義

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様には、新たな気持ちで輝かしい初春をお迎えのことと存じます。

また、皆様には平素から普及センターの活動全般にわたり深いご理解と温かいご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、融雪期は平年と比べ十一日早い三月二十九日となり、例年にない温暖な春を迎えました。融雪後、耕起作業は平年に比べ七日早く始まりましたが、その後の断続的な降雨等により、春耕期の作業は平年並みとなりました。六月初旬に低温の期間がありましたが、その後の天候は順調に推移しました。大きな気象災害は無かったものの、例年にない高温多湿の気象経過であり、特に八月中旬から九月中旬にかけての高温条件から各作物とも、平年どおりの品質・収量を確保することが難しい年となりました。

こうした気象経過から、上川地方における水稲の作柄は、収穫を前に倒伏が多く見られ、懸念された胴割粒等は多くなかったものの、品種によっては白未熟粒が多く、高タンパク化など品質に大きな影響を及ぼしました。各転作作物についても高温の影響や、降雨による収穫期の遅れにより品質・収量の低下を招いています。しかし、園芸作物については、高温による影響は見られたものの、全国的な供給減による価格の上昇で増益となった品目もありました。

このような状況にあって、気象条件や病害虫の発生に対応した、皆様のきめ細やかな栽培管理が凶作を回避する結果に繋がったものと、改めて敬意を表するところでありますが、今後も気候変動による作物生育への影響や、病害虫の侵入拡大に対しては警戒と対策を考えなければならない状況にあると思います。

気候変動対策や農業者人口の減少等に対し、国では令和四年に「みどりの食料システム法」を制定し、農林漁業及び食品産業の持続的な発展、環境への負荷の少ない健全な経済の発展等をめざしています。また、国際情勢の変化から、生産資材価格の高騰が農業経営に多大な影響を与えている中、食品原料価格の値上がりが続き、食料安全保障等、農畜産物の国内生産に対する期待も高まりつつあります。先行きが予想できない状況ではありますが、当麻町農業の強みであります「水稲と施設園芸による複合経営」の潜在力、共同育苗・共選出荷等による生産と流通におけるメリットを最大限に活かし、こうした期待に応えていくことが重要と考えます。気候変動や土壌病害等の生産阻害要因に対し適切に対処し、産地として安定的に需要に応えることができる組織力のある地域であり続けていくことを期待します。

普及センターも、今後の情勢を的確に捉まえて、組合員の皆様及び関係機関の方々と一体となり、生産振興と地域振興を支援してまいりますので、皆様の一層のご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして健康で希望に満ちた良き年となり、また、豊穣の年となりますことを心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

謹賀新年

上川総合振興局
上川農業改良普及センター

所長	鈴木康義
次長	松浦準
主任普及指導員	若宮貞人
主任普及指導員	辻敏昭

地域第二係（当麻町担当）

係長	白井淳
主査	小柴潤一
主査	草野裕子
専門主任	桂川さつき
専門普及指導員	野原弘義
専門普及指導員	井村直樹
普及指導員	水尾健斗
普及職員	道畑乃映

新年のご挨拶

JA当麻青年部　部長
井上雅敬

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、令和六年の新春を健やかに迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、日頃より組合員、各関係機関の皆様には青年部活動に対しまして多大なるご理解とご協力、ご支援をいただいていることに厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、生産資材価格においては一部値下げが行われているものの、以前の価格水準までは戻っておらず、更には人件費を含めた生産コストの高騰は農業経営に与える影響は非常に大きく、大変厳しいものとなっております。また、新型コロナウイルスが五類へ移行されたことで、人の動きは活発なものとなり、米や各種農作物の消費に回復の兆しが見えてきましたが、物価高の影響により消費者における低価格志向が高まっており、今後も消費の動向を注視する必要があります。

当地の営農としましては、春先は温暖な気候に恵まれ降雪量は平年より少なく、ハウスや圃場の融雪も早く進み順調な春作業を行うことができたものと感じております。播種、育苗管理、移植時期は好天で推移したことで、苗や移植後の生育も順調に進んだものと感じておりましたが、七月下旬からは局地的な集中豪雨や八月以降の強風、連日続く猛暑日の影響を受け、農作物の管理や収穫においては大変苦労の多い年であったものと感じております。水稲につきましたは、農政事務所による上川管内の水稲作況指数は「一〇五」と公表しておりますが、生産者間では作況指数ほどの収穫量は得ることができていないのではないかと感じております。さらには、高温や収穫時期の雨の影響を受け、白未熟粒や胴割粒の発生が散見され、タンパク含有率についても高く、良品質米生産に苦慮された年となったと感じております。青果類につきましては、一部品目で高温の影響を受け収量が伸び悩む時期もありましたが、青果物全体では平年並みの収量を確保することができ、きゅうりにおいては販売金額が八億二千万円を超えるなど青果物全体として前年を上回る販売実績となりました。花き類につきましては、前年から続く円安の影響で国内産の需要が高まり各種イベントなどが開催されてきたことで、安定した高単価で推移し昨年を上回る販売実績となりました。

青年部事業としましては、農協機械銀行事業と連携し融雪材散布作業の実施や青年部の知識向上を目的とした営農勉強会や畑作物栽培の拡大に向けた現地研修会を開催し見分を広めました。また、稲作研究会との合同視察研修では帯広市で開催された世界機械展に参加や上青協並びに上女協の合同事業として農産物の消費拡大に向けたレシピ作成を実施いたしました。更には、上青協中央ブロック交流会として、近隣の青年部員に向けて当農協の集荷場施設の見学を行ったのちに意見交換を実施させていただき、町外の青年部とのより良い交流の場になったと感じております。町内行事については、当麻祭りでのお御輿担ぎや蟠龍祭りでの出店など町内行事へも積極的に参加し、部員同士の交流のみならず当麻農業、当麻町の発展のために活動を行ってまいりました。

当青年部はこれからも、高品質でより良い農作物を生産していけるよう各種研修会への参加や勉強会を行い、知識を深め幅広い活動をしていくことが重要であると考えております。また、諸先輩方から引き継いだ伝統をしっかりと次の世代へと継承し、さらなる当麻農業の発展のために事業運営に努めてまいります。

最後になりますが、青年部員や各関係機関の皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げるとともに皆様のご健勝と豊穣の出来秋を迎えられますことをお祈りし新年の挨拶とさせていただきます。

賀春

―JA当麻青年部―

部長	井上雅敬
副部長	日下部渉
副部長	太田貴仁
代表監事	三島知浩
監事	菅野有祥
総務委員長	山田洋暉
総務副委員長	広富周司
水稲委員長	岸山誠人
水稲副委員長	水野雄貴
施設園芸委員長	辻和博
施設園芸副委員長	山下裕介

新しい年に

JA当麻女性部　部長
広富　美恵子

新年明けまして、おめでとうございます。

令和六年の新春を皆様と共に迎えられた事を心からお喜び申し上げます。

また、日頃より女性部活動には、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、春先は好天に恵まれ順調に作業が進みましたが、夏場の記録的な猛暑は各農産物の収量および品質に大きな影響をあたえ、栽培管理に大変苦労をした一年でありました。しかしながら日頃の栽培管理における努力が実り、当麻農業が取り組んでいる複合経営が所得確保に繋がったものと感じております。

女性部活動としましては、常勤役員と女性部役員において当麻農業の発展に貢献できるよう懇談の場を設けていただき、ミニトマトの作付け拡大に取り組んでまいりました。女性部にて栽培講習会を開催し推進活動を行った経過にございます。今年度においても引き続きＪＡ当麻と手を携え部員皆様にご協力を賜りながら当麻農業の力となれるよう尽力してまいります。

また、新型コロナウイルスにより長い間活動の制限がございましたが、五類への移行により四年ぶりとなる一泊視察研修の開催、ＪＡ上川地区女性協議会Ｂブロック研修会や創立七十周年記念式典への参加、社会貢献として当麻柏陽園にてシーツ交換のボランティア活動、美化運動として開明、伊香牛地区の花壇作りなどを行ってまいりました。女性部員や他地域の部員と交流し、改めて交流の大切さを実感した一年でありました。部員の皆様には各種活動にご参加、ご協力いただきましたことに改めて感謝とお礼を申し上げます。

今後の女性部活動といたしましては、健康を守る活動として一月にスポーツ交流会を予定しておりますので、部員皆様多数のご参加をお待ちしております。

女性部運営において部員の減少や高齢化など課題はございますが、部員の皆様が充実し有意義な時間を過ごせる活動内容を企画してまいりますのでご興味のある方はぜひ女性部への参加をお願いいたします。農業に携わり多忙な日々の中でも、皆様の憩いの場でありリフレッシュの場となる様引き続き活動を行ってまいりますので、宜しくお願いいたします。

農業を取り巻く環境は依然として厳しい状況下にございますが、本年においても部員の皆様とご家族が健康で笑顔が溢れ、農業経営においても素晴らしい一年となりますことをご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

あけまして おめでとうございます。

―ＪＡ当麻女性部―

部長　広富美恵子
副部長　角谷みか
監事　亀田敦子
理事　今橋祐美
理事　豊田美記江

理事会報告

EXECUTIVE BOARD

次の事項が審議され提案通り承認されました。

第14回理事会

令和5年11月27日

●議案第１号　令和５年度10月末収支見通しについて・年末手当等の支給について
●議案第２号　令和６年度営農計画書作成基準及び審査方針・審査基準について
●議案第３号　コンプライアンスマニュアルの一部改正について
●議案第４号　役員に対する融資について
●議案第５号　組合員の異動について

組合のあゆみ 11月

1 北海道農業信用基金協会理事会
（２日迄　札幌市　組合長）
6 令和５年度農産物集荷報告会（大ホール）
7 ＪＡ北海道大会実践フォーラム（８日迄　札幌市　組合長他7名）
8 当麻町そ菜研究会キュウリ部会販売金額８億円達成祝賀会
（大ホール　常勤）
9 令和５年度新規担い手就農者を祝う会（大ホール　常勤）
10 令和５年度当麻町功労表彰式並びに祝賀会
（まとまーる　組合長・参事）
11 農林水産省畜産局と上川地区農協組合長会との意見交換会
（旭川市　組合長）
12 全共連海外視察研修（17日迄　組合長）
15 上川地区農協監事協議会道内視察研修
（17日迄　道央方面　監事団）
23 道北地区ＪＡ専務協議会道外視察研修
（26日迄　東北方面　専務）
令和５年度当麻神社秋季大祭新嘗祭（社務所　組合長）
24 上川地区農業協同組長会他（旭川市　組合長）
27 第14回理事会
上川地区農協酪農畜産対策委員会（旭川市　組合長）
29 役員研修（12月１日迄　佐賀・福岡方面）

組合のあゆみ 12月

1 上川中央部農協連絡協議会　冬期研修会（旭川市　参事）
4 第７回監事会
5 上川地区農協監事協議会代表者会議
（JA上川ビル　林代表監事）
6 当麻町農業税対協議会第20回定期総会
（大ホール　専務）
当麻町水稲防除連絡協議会総会（大会議室　専務）
7 当麻町そ菜研究会定期総会及び作況反省会
（大会議室　常勤）
8 当麻町花き生産組合定期総会及び作況反省会
（大会議室　常勤）
13 11月末定期監査（19日迄　監事団）
18 上川地区ＪＡ常務・参事会議（旭川市　参事）
20 上川地区農協組合長会議（ＪＡ上川ビル　組合長）
上川地区農協畑作青果対策員会（〃）
上川地区農協米対策委員会（〃）
21 第15回理事会
役員コンプライアンス研修会（大会議室　全役員）

ＪＡ当麻本部事務所外壁改修工事終了のお知らせ

令和5年9月よりJA当麻本部事務所にて行っておりました外壁改修工事が11月で終了いたしました。

改修工事期間中は本部事務所を利用する際に騒音や工事車両にて、皆様にはご不便をお掛けいたしました事に深くお詫び申し上げます。長期間にわたり、ご理解ご協力をいただきありがとうございました。

11月9日　令和５年度 新規担い手就農者を祝う会開催
～農業関係者約50名が新たな門出を祝う～

当麻町、当麻町農業委員会、JA当麻の3団体が主催となり、新規担い手就農者を祝う会が農協３階大ホールにて開催され、農業関係者約５０名が出席する中、今年度、当麻町で新規就農された方と新婚農業者を激励いたしました。

主催者を代表して村椿町長より、「当麻町の農業の強さといえば各関係機関の横のつながりであり、皆さん一体になってこの当麻農業を守り、そして発展をさせていくという決意のこもった組織です。当麻町が一丸となって支えています組織ですので、ぜひ頼っていただきたいですし、私どもも全力でサポートをさせていただきたい」と挨拶。JA福井組合長から「農業は天候相手の仕事で大変厳しい場面もこれから多々あります。その厳しい難局を乗り越えるときに、諸先輩方、組織、地域、農業を経験されている方がたくさんいらっしゃいますので、１人で悩んで踏みとどまるのではなく、皆さんの支えや力をいただきながら、その難局を乗り越えていただきたいと思いますし、乗り越えた向こう側には、素晴らしい達成感と明日に繋がる技術があると思いますので、頑張っていただきたい」とエールを送りました。

また、当麻町議会中港議長、JA青年部井上部長よりお祝いの言葉が贈られ、JA北海道中央会などJAグループ5団体からの激励状、主催３団体から記念品が贈呈されました。

新規担い手就農者より、「周りの先輩に助けていただきながら、今後とも頑張っていきたいと思います」と挨拶。新婚農業者からは「これから二人で力を合わせ、魅力ある当麻農業の発展に貢献できるよう努力していきたいと考えております」と挨拶されました。

新規就農者

遠藤（えんどう）　広明（ひろあき） さん　（北星2区）

主要栽培作物：
　水稲、そば、ミニトマト

今後の抱負：
　後継者として両親のつちかってきた知識と技術を受け継ぎ、当麻町に貢献できる農業をして行きたいと思います。
　頑張りますのでご指導宜しくお願いします。

新規入植者

髙柳（たかやなぎ）　力也（りきや） さん　（北星2区）

主要栽培作物：
　ミニトマト、トマト、スイートコーン、南瓜
今後の抱負：
　北海道野菜の美味しさを本州の人たちに伝えていけるよう頑張ります。

髙島（たかしま）　恵子（けいこ） さん　（開明5区）

主要栽培作物：
　水稲、牧草、トマト
今後の抱負：
　先ずは安定した収穫量を確保する。スキルを磨きながら怯まず、様々なことに挑戦していきたいです。

髙柳（たかやなぎ）　佐知子（さちこ） さん　（北星2区）

今後の抱負：
　美味しくて喜んでもらえる野菜作りを頑張ります。

新婚農業者

山下（やました）　裕介（ゆうすけ） さん　**真緒（まお）** さん　（宇園別2区）

主要栽培作物：水稲、胡瓜
今後の抱負：夫婦で力を合わせて末永く頑張ります。

※遠藤広明さん、髙柳佐知子さんについては当日欠席となっております。

11月8日　キュウリ部会販売金額8億円達成祝賀会 ～2度目の8億円突破～

当麻町そ菜研究会キュウリ部会では、11月8日販売金額8億円の達成を記念して、部会生産者、JA、町、市場ほか関係団体ら約70名が出席し、祝賀会が開催されました。販売金額8億円突破は、令和2年度にも達成しておりますが、コロナ禍で祝賀会開催を見送っておりました。

今年で44年目を迎えたキュウリ部会は、昭和54年発足当初20戸3.8ヘクタールからスタートし、現在50戸15.2ヘクタールを栽培しております。

今年度は、天候の急変、日照不足、異常高温による収穫量減少や品質低下など管理が難しい一年でありましたが、生産者個々の適切な栽培管理により過去最高の部会平均収量を確保。年間を通じて価格が安定して推移し、8億円を上回る販売実績となりました。

齋田部会長より「今後も異常気象や輸送の2024年問題など厳しい農業情勢が予想されますが、JAを始めとした各関係機関そして取引市場、関係業者との連携を更に強め、一層信頼度の高いキュウリ生産に取り組むとともに、更なる高みに向かって部会一同研鑽を重ねて参ります」と挨拶。

また、来賓として福井組合長、村椿町長より祝辞をいただいた後、そ菜研究会開田会長の発声で祝宴に入り、出席者全員で8億円達成を祝いました。

挨拶をする齋田部会長

11月7日　令和5年度　JA北海道大会実践フォーラム

11月7日、令和5年度JA北海道大会実践フォーラムが札幌市にて開催され、道内各地よりJA、連合会、青年部等の組織代表が集い、当JAからは福井組合長をはじめ青年部長など役職員あわせて7名が参加いたしました。

このフォーラムは、令和3年11月に開催されました「第30回JA北海道大会」決議事項の実践状況報告、食糧安全保障制度の重要性を再確認する事を目的に開催され、JAグループ内において発信を行い、各団体組織が北海道大会で掲げた『北海道550万人と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」』の実践に向け、組合員との対話を重ね自己改革の取り組みを継続していくことの大切さを再確認いたしました。

当JAでは、JA運営の好循環、組合員皆様との『対話』を重視し、引き続き実践を行ってまいります。

当麻町そ菜研究会・当麻町花き生産組合　各部会定期総会及び作況反省会

当麻町そ菜研究会、花き生産組合各部会の定期総会及び作況反省会に、多くの部会員の皆様にご出席をいただきました。

つきましては、今年度の各品目の販売実績を掲載いたします。

令和５年度野菜販売実績

11月末現在

品　目	総販売額（千円）	前年比	出荷重量（kg）	前年比	kg単価（円）
キュウリ	822,672	123%	3,013,387	102%	273
ミニトマト	340,408	95%	486,015	88%	700
でんすけすいか	178,097	95%	393,962	93%	452
メロン	8,496	65%	16,641	65%	511
南瓜	12,373	94%	60,047	82%	206
菜豆	3,360	54%	3,704	52%	907
葉菜	16,229	70%	36,163	60%	449
ナンバン	2,013	77%	6,555	82%	307
豆類	151	36%	224	33%	673
椎茸	132	51%	188	37%	704
その他	9,582	142%			

令和５年度花き販売実績

11月末現在

品　目	総販売額（千円）	前年比	出荷本数（本）	前年比	単価（円）
菊	103,836	104%	1,237,344	94%	84
カーネーション	24,212	114%	434,120	115%	56
バラ	23,627	103%	164,170	100%	144
草花	11,088	82%	215,092	75%	
その他	9,453	76%			

[でんすけ部会]

[トマト部会]

[南瓜･メロン･葉菜豆部会]

[キュウリ部会]

12月7日　青果物総取扱額15億円を目標に
当麻町そ菜研究会第58事業年度定期総会及び全体作況反省会

定期総会の様子

農協３階大会議室にて、当麻町そ菜研究会第58事業年度定期総会及び全体作況反省会が開催され、そ菜研究会員、各関係機関担当者など約60名が出席されました。

始めに山田副会長より「夏場の高温で単価はよくても収量が取れないという事態が一部の品目であり、１年間苦労した年だと思います。来年もこういう天候が続かないことを願いたいところですが、暑さ対策も考えていかなくてはならないと思います。また、農業者人口の平均年齢が68歳ということで当麻も例外でありませんが、少しでも生産を維持できるように研究会並びに皆さんの力をいただきながら進めてまいりたいのでよろしくお願いいたします。」と挨拶。

続いて、令和５年度優秀出荷者の表彰が行われ、各部会品目において優秀な出荷成績を収められた生産者へ表彰盾が手渡されました。

次に来賓を代表して、JA坂下専務理事、村椿町長より祝辞をいただき、議事では令和５年度事業報告、令和６年度事業計画（案）について審議され、全議案が承認されました。

総会終了後行われた全体作況反省会では、事務局より今年度の各部会実績報告のあと、ホクレン旭川支所青果課 小田課長より道内の各品目別取扱数量と当地の主要品目の順位などの情勢報告が行われました。また札幌みらい中央青果(株)小笠原課長より道内市場情勢報告、大果大阪青果(株)大原副部長より道外市場情勢報告が行われました。

キュウリ部会	最優秀賞	宇園別3−1区　齋田　浩二 様
トマト部会	最優秀賞	宇園別3−1区　加納　路久 様
でんすけ部会	最優秀賞	中　央3−4区　楠木　敏明 様
南瓜・メロン・葉菜豆部会		
「南　瓜部門」	最優秀賞	中　央3−4区　楠木　敏明 様
「メロン部門」	最優秀賞	開　明2−3区　㈱美頭農園 様
「葉　菜部門」	最優秀賞	宇園別2−3区　辻　　和博 様
「葉　豆部門」	最優秀賞	伊香牛1−1区　今橋　淑子 様

優秀出荷者表彰の様子

12月8日　総販売金額2億円を目標に 当麻町花き生産組合 第64事業年度定期総会及び全体作況反省会

農協3階大会議室にて当麻町花き生産組合第６４事業年度定期総会及び全体作況反省会が開催されました。

開会冒頭、土井組合長より「今年一年を振り返りますとコスト高、猛暑と花生産には厳しい一年でしたが、生産者皆さんの日々の管理そして職員の皆さんと各関係機関のご協力で２年連続の高単価となりました。生産者の減少に伴い、市場に対する影響力が弱くなっていると感じていましたが、単価を下げずに販売する事が出来たのは『大雪の花』のブランド力の強さだと実感出来た一年でした」と挨拶。

次に、JA坂下専務理事、当麻町農林業振興課　水口課長から来賓祝辞の後、定期総会議事にて令和５年度事業報告、令和６年度事業計画（案）について審議され、提案通り承認されました。

引き続き行われた全体作況反省会では、事務局より今年度の販売実績、札幌花き園芸(株)　若松部長、(株)なにわ花市場　栗林取締役営業副本部長より今年度の販売情勢について報告がなされました。

終了後に行われた全体懇親会では、今年度の花き栽培管理努力により高品質な生産・安定的な出荷を行い優秀な成績を収めた生産者に表彰が行われ、土井組合長より表彰の盾が贈呈されました。

挨拶をする土井組合長

最優秀賞　比布町　太田　茂　様
『花き栽培において栽培管理努力により高品質な生産を行い安定した出荷に努め、出荷本数において極めて優秀な成績によるものです。』

優秀賞　開明３区　小倉　正夫　様
『花き栽培において栽培管理努力により高品質な生産を行い安定した出荷に努め、出荷本数において優秀な成績によるものです。』

菊班

功労賞　中央６区　吉田　英一　様
『多年に渡り高品質かつ安定的な菊類の生産に尽力され組織発展に大きく寄与されたものです。』

洋花班

功労賞　比布町　勝見　國男　様
『多年に渡り高品質かつ安定的な草花類の生産に尽力され組織発展に大きく寄与されたものです。』

JA当麻役員研修

日　程　　令和５年11月29日～12月1日迄

視察先　　佐賀県、福岡県

11月29日から12月1日までの日程にてＪＡ当麻役員研修が開催されました。

一つ目の視察先である佐賀県にある「ゆめファーム全農SAGA」は、ＪＡ全農が2019年に建設した施設で、きゅうりの土耕栽培とロックウール養液栽培の比較検証を行なっている国内最大規模の大規模多収栽培実証ハウスがある施設であります。同施設は、ハイワイヤーつるおろし栽培や連続摘芯栽培を用いて、目標収量は全国平均（約14ｔ/10ａ）の３倍以上にあたる45ｔ～ 50ｔ／ 10ａに設定しております。さらに同ファームは、全農、佐賀市、ＪＡさがの３者による包括連携協定のもと、施設に隣接している佐賀市清掃工場よりパイプを繋ぎ、余熱と排ガスから食品添加の基準をクリアした安全レベルの二酸化炭素（炭酸ガス）の供給を可能としたスマート農業技術等を取り入れることで、土耕栽培区及び養液栽培区ともに目標収量を大きく超える収量を達成し、土耕栽培区と養液栽培区を合わせた施設全体（84.5ａ）の年間出荷量は約481.5ｔとなり、10ａ当たりの収量については国内最高水準を達成しております。

二つ目の視察先は全農パールライス株式会社の福岡工場を視察いたしました。同工場は2020年に全農パールライス福岡支店と大分支店を統合し、新たな福岡支店を設置、その精米工場として竣工しております。工場は東洋ライスプラントに旧大分・福岡工場の一部施設を移設し、新たな機器も加えた中で稼働しており、玄米タンクから計量タンクまではエアー搬送、精米機は4.5ｔ／ｈが２基を要しており、精米・搬送ロット切替は90秒と短時間で切り替えができる施設でありました。取扱アイテム数は約250アイテムと商品数はかなり多く、中でも2ｋｇスタンドパックは約50アイテムありスタンドパックを製造する割合が高いとのことでありました。また、エージレス商品（脱酸素剤入り）も多く、多様化する販売にも対応しているとのことであります。

この度の研修を経て、引き続き当ＪＡとして先進的な技術や設備等を取り入れ、当麻農産物の安定した栽培や販売に結びつくよう役員一同取り進めてまいります。

10月25日 カントリー荷受報告会

カントリーエレベーターにおいて、令和5年度当麻町カントリー利用協議会　荷受報告会を開催いたしました。

開会冒頭、羽根会長より「今年は暑さの影響で大変難儀したため、我々生産者も今後暑さ対策の技術について学ばなければならない」と挨拶をいただきました。その後担当者より各品種のカントリー荷受け状況の報告が行われ、坂下専務理事の挨拶で懇親会に入りました。

11月1日 女性部Bブロック研修会

11月1日にJA上川地区女性協議会中央部Bブロック研修会がJA東神楽にて開催され、JA当麻女性部から8名が参加しました。

研修会では、健康運動指導士による体幹運動とフラワー装飾技能士の指導のもと、季節の花を使用したフラワーアレンジメントの作成を行いました。最後に技能士の方が作成したアレンジ花の抽選会が行われ、会場は大変盛り上がりました。

他JA女性部員との交流や、東神楽の特産品を使用した昼食などを堪能し、日頃の疲れを癒す楽しい研修会となりました。

11月6日 農産物集荷報告会

農協3階大ホールにて、生産組織代表とJA役職員による令和5年産農産物集荷報告会を開催いたしました。

冒頭、福井組合長より「今年度このような実績結果になりましたのも生産組織のご協力の賜物だと思います。来年に向けて、また一歩前へ踏み出せるように頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます」と挨拶。

各担当者より農産物の実績の報告のあと、当麻米産地形成協議会　日下部会長の乾杯を合図に懇親会が行われ、参加者全員で労をねぎらいました。

11月8日 上川地区ゆめぴりかコンテスト金賞受賞

旭川市内にて、上川地区農協米対策委員会とゆめぴりか生産販売連絡協議会、ホクレン旭川支所による「上川地区ゆめぴりかコンテスト2023」が開催されました。管内12JAがサンプルを出品し、松本米穀店、北海道鮨商生活衛生同業組合、ANAフーズなどの代表ら7人の審査員が見た目、香り、味、粘り、硬さなどを総合的に判断し、見事、当農協が2015年以来となる金賞に輝きました。

11月10日 職員全体コンプライアンス研修会開催

JA当麻全職員を対象としたコンプライアンス研修会が11月10日、大ホールにて行われました。

研修会には、JA北海道中央会旭川支所　島津氏を講師に迎え、「個人情報保護」をテーマにグループワークを中心に行い、日々の業務の中で気を付けるべき点などを確認しました。

JAでは全役職員が関係法令や社会的規範を守り、JAの果たすべき基本使命・社会的責任に携わる者としてコンプライアンスを遵守し、一層の意識向上の徹底に取り組んでまいります。

11月16日 メンタルヘルス研修会

JA当麻全職員を対象としたメンタルヘルス研修会が11月16日、大会議室にて行われました。

北海道農業団体健康保険組合　林氏を講師に迎え、今年のストレスチェックの結果とメンタルヘルスに関する研修が行われ、ストレスの仕組みや受け止め方などのほか、「不調に気づくためにはセルフチェックなどの指標を用いることがおすすめです。また、不調に陥らないために普段から心と体の免疫を上げることが大切です」とアドバイスをいただきました。

11月22日～24日 当麻町カントリー利用協議会 ㈱スーパーアルプス、㈱関西スーパーマーケットで今摺米をPR販売!

当麻町カントリー利用協議会では11月23日に今摺米販売の大消費地、東京都八王子市の㈱スーパーアルプス、兵庫県伊丹市の㈱関西スーパーマーケットにて新米今摺米の販売PRを行いました。

協議会役員5名が2社3店舗で今摺米の試食による販売PRを行い、また、購入者にはもれなく大豆加工品のドライパックのプレゼントを行い、消費地と産地の交流の場として好評のうち終了いたしました。

11月27日～30日

当麻町そ菜研究会 役員視察研修

AGRIST株式会社

JA都城　キュウリ選果場

大果大阪青果株式会社

当麻町そ菜研究会では、今後の組織活動や園芸品目の振興に繋げることを目的に、11月27日から30日の日程でそ菜研究会役員13名、職員2名にて宮崎県、大阪府へ視察研修を実施いたしました。

宮崎県では、自動収穫ロボットを開発しております「AGRIST株式会社」とJA都城の「キュウリ選果施設」を見学させていただきました。

大阪では、取引先市場である「大果大阪青果株式会社」も訪問し、開田会長より本年度の販売のお礼を述べたあと、井原役員より昔と現在の販売形態の変化やそれに伴う出荷形態の変化、消費地が求めている事などの説明があり、その後、意見交換や市場内を見学させていただきました。

12月6日

当麻町税対協議会定期総会

当麻町農業税対協議会では、農協3階大ホールにて第20回定期総会を開催いたしました。

始めに佐々木会長より「10月からインボイス制度が始まり、複雑な部分が出てきております。コロナウイルスの収束に伴い、税務署の調査も活発になっていますので、適正な税務処理をお願いいたします」と挨拶。続いて当麻町税務住民課　濱田課長、JA坂下専務理事から来賓挨拶のあと、事務局より令和4年度活動報告及び収支決算報告、令和5年度活動計画(案)及び収支予算(案)について審議され、全議案が承認されました。また、任期満了に伴う役員改選については全役員留任にて承認されました。

新役員		
会　長	中央3－4区	佐々木康二
副会長	緑郷1－2区	太田　弘
副会長	北星3－1区	菅野　史昭
監　事	中央4－2区	羽根　敏
監　事	中央6－1区	角谷　拓
事務局長	開明4－1区	日下部裕一

12月6日

水稲防除連絡協議会定期総会

農協3階大会議室にて、当麻町水稲防除連絡協議会定期総会が開催されました。

始めに、真鳥会長より「本年度は人間、作物共に苦しい年でございましたが、大きな事故や怪我もなく作業を終えることができたことは良かったと思います。来年度も今年のような体制で皆様に頑張っていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします」と挨拶。来賓のJA坂下専務理事、当麻町農林業振興課 水口課長より祝辞をいただき、令和5年度事業報告並びに収支決算報告、令和6年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について、全議案が原案通り承認されました。また、任期満了に伴う役員改選については全役員留任にて承認されました。

新役員		
会　長	中央2区	真鳥　修一
副会長	中央1区	長谷川　新
副会長	伊香牛3区	平岡　智孝
監　事	開明4区	日下部　渉

林修先生と学ぶ「国消国産」講座

Lesson 7

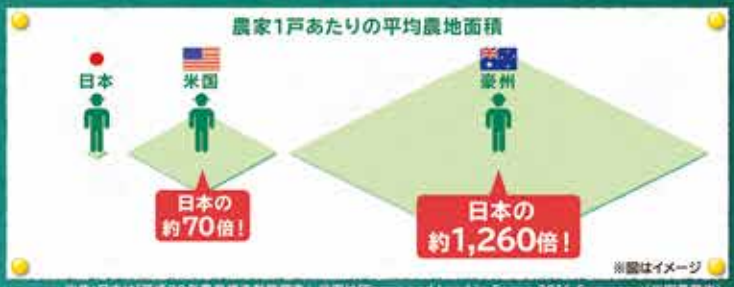
農業が持つ多面的機能という価値

次の世代につなげていくために

なぜ今？国消国産

中山間地域の自然も生かした農業や食が、日本の特色

日本は食料の約6割を輸入に頼っています。米国や豪州などは、広大な農地でその規模に合った大型機械を使って農業をしていますが、なぜ、日本では同じ方法で自給率を上げることができないのでしょうか。それは、日本は起伏の激しい中山間地が多く、広大で平坦な土地が少ないためです。国土面積の約7割を中山間地域が占めている日本では、標高差や豊富で良質な水資源などの自然を生かした農業を展開しています。



出典：日本は「平成29年農業構造動態調査」、米国は「Farms and Land in Farms 2016 Summary」（米国農務省）、豪州は「Agricultural Commodity Statistics 2016」（豪州農漁業省）

農業が持つ食料生産以外の重要な役割「農業の多面的機能」

農業は、食料を生産するだけでなく、「農業の多面的機能」という重要な役割も果たしています。中山間地域など斜面に畑や水田があることで、川の洪水や土砂崩れを防ぎ、また、市街地や都市の農地は気温上昇を抑えたり、災害時の防災空間になるなど、多くの機能を発揮しています。さらに、多くの生き物のすみかになり、美しい景観を生み出しています。

農林水産省（https://www.maff.go.jp/j/nousin/noukan/nougyo_kinou/img/zentai02.jpg）の図を加工して作成

だから今！国消国産

「国消国産」で、「農業の多面的機能」の持続を

普段は気づきにくい「農業の多面的機能」ですが、中山間地や都市部を問わずに、私たちの生活や自然環境をしっかりと守ってくれています。「国」民が必要とし「消」費する食料は、できるだけその「国」で生「産」するという「国消国産」の大切さを、私たち一人ひとりが意識して、「農業の多面的機能」を次の世代につなげていくことが重要です。

ここがポイント！

1. 日本の国土の約7割は中山間地域、その地形に適した農業を展開
2. 農業は国土の保全、多様な生態系維持など「多面的機能」を発揮
3. 「国消国産」で、「農業の多面的機能」を持続可能なものに

JAグループサポーター・林修

国消国産 こくしょうこくさん

耕そう、大地と地域のみらい。JAグループ

みんなの広場

Chef Nagai's recommended recipe

シェフ永井のおすすめ

永井智一（ながい・ともかず）
茨城県笠間市にある「天晴（旧キッチン晴人）」オーナーシェフ

「紅玉のグラタン」

材料（2人分）

紅玉	2個
ホタテ貝柱	2個
ホンシメジ	2本
無塩バター	適宜
白ワイン	大さじ2
ホワイトソース（市販品）	大さじ3
薄力粉	適宜
パルメザンチーズ	適宜
ディル	適宜
塩・こしょう	適宜

作り方

(1)リンゴの紅玉を釜にする。釜部分とふたに切り分け、釜はアイスディッシャーなどで中をくり抜き、塩水で洗い、水気を切っておく。

(2)くり抜いた紅玉の中身は半分に切って種を取る。ホタテ貝柱は塩・こしょうをして薄力粉を付ける。フライパンに無塩バターを熱し、紅玉の中身、ホタテ貝柱、ホンシメジをソテーして紅玉の釜に戻す。

(3)フライパンに白ワインとホワイトソースを入れ、火にかけて混ぜ合わせ、(2)の上にかける。

(4)オーブンを200度に熱し、(3)にパルメザンチーズをかけて7、8分焼き上げ、ディルを飾り出来上がり。

タテのカギ

❶ 大学入学共通テストの理科の科目の1つ
❹ キウイやポンカンの生産量が日本一の県
❼ エッセーともいいます
❾ かつお節や昆布でとります
❿ ガラガラとうがいをして洗うもの
⓫ ゆでた麺をざるにあけて行います
⓭ 大股の人は広めです
⓯ カメやカッパの背に付いています
⓰ ――や硯（すずり）を用意して書き初めをした
⓱ カラオケで楽しむもの
⓲ ――の計は元旦にあり
⓴ 旧暦1月の異称
㉑ 見張ること。――カメラ

ヨコのカギ

❶ おせち料理にも使うニシンの卵巣の加工品
❷ 旅行前に――ブックを買った
❸ 俳人が名作を生み出した地に建てられていることも
❺ 北を向いたとき西になる方向
❻ 丁寧にいうとご飯です
❽ 横綱を先導して土俵に上がります
⓬ セイウチの口からによっきり
⓭ 農地――、道路交通――
⓮ DNAが含まれる体の設計図。――操作
⓯ 猫が中で丸くなっているかも
⓰ 不要物を可燃、――、資源ごみに分別した
⓱ 彼女は――を言わせず彼を外に連れ出した
⓳ エレベーターの表示では「B」

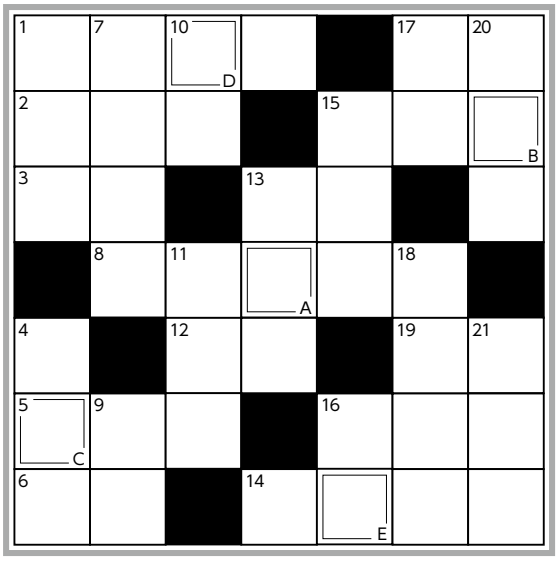
1フ	5ユ B	8ウ	ガ	14キ		21ペ
	6ダ	ン		15ソ	18フ A	ア
2イ	ン	ド	12ア		19タ	ル
ロ		9ウ	タ D	16ゲ		ツ
3ハ	7ム		13マ	ジ	20ツ	ク
4ザ	ク E	10ロ		17ユ	キ	
カ		11ジ	ネ	ン	ジ C	ヨ

11月号の答えは…

A	B	C	D	E
フ	ユ	ジ	タ	ク

頭の体操 クロスワードパズル

二重マスの文字を、A～Eの順に並べてできる言葉は何でしょうか？



令和６年度　JA当麻　野菜集荷場　受入カレンダー

１月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

２月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

３月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

４月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

５月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

６月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

７月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

８月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

９月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

１０月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

１１月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

１２月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

□ の印は受け入れ休みとなりますので、ご協力をお願い致します。

施設園芸課 TEL84-3201

JA TOHMA Information

年末・年始の営業について

年末年始の営業を下記の通りとさせて頂きますので、宜しくお願いいたします

	業　務　納　め	業　務　初　め
本　部　事　務　所	12月29日(金)	1月5日(金)
金　融　関　係	12月29日(金)	1月4日(木)
現金自動預払機(ATM)	12月29日(金)	1月4日(木)
資　材　事　務　所	12月29日(金)	1月5日(金)
給　油　所	12月31日(日)正午まで営業	1月4日(木)～6日(土)8:30～17:00まで営業

施設園芸課からのお知らせ

令和6年度の共同育苗苗（野菜・果実）の申し込みについて

令和6年度共同育苗苗の申込書につきましては、既に部会員の皆様を対象に配布しております。申込期限については12月25日（月）迄となっておりますので、まだ申し込みをされていない方は種子注文等ありますので、お早めに施設園芸課までご提出願います。

また、新たに部会加入される方は施設園芸課にて加入手続きとその要領を理解していただき、苗の申し込みをお願いいたします。

一般苗の申し込みについては1月9日（火）からとなっております。部会品目の苗生産時期以外や余力スペースにて生産いたしますので、ご希望に添えない場合もありますので、ご理解いただき、印鑑持参の上、施設園芸課までお申し込み下さい。

JA当麻　No.640
発 行 日　令和6年1月
発　行　当麻農業協同組合
編　集　管理部総務課
住　所　上川郡当麻町4条東3丁目4番63号
電　話　0166-84-2121
JA当麻ホームページ
URL　http://www.ja-tohma.jp/

編集後記

◆今回から、広報作成を担当させていただくこととなりました谷口と申します。◆入組してからまだ1年も経っていない新人ですが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。◆また、組合員皆様のお宅に取材へお伺いすることもございますが、ご協力よろしくお願いいたします。（谷口）